

稲垣 道（いながき・みち）

1、プロフィール

歌人。昭和23年「国原」入会、稲垣浩に師事する。昭和30年「まひる野」入会、窪田章一郎に師事し有力な同人として活躍。昭和53年から平成26年まで「国原」を主宰した。

<生没>

1931(昭和6)年10月5日～2014(平成26)年12月24日

<代表作>

『冬の園』『母の紋章』『花の流離』『かたかごの花』『光の渚』

<青森との関わり>

八戸市生まれ。稲垣浩亡きあと「国原」を主宰。八戸学生短歌協会初代会長、県歌人懇話会副会長を務めた。

2、作家解説

昭和23年の16歳の時に啄木にあこがれて歌を作り、デーリー歌壇に投稿し天位に入選。それをきっかけに各新聞歌壇に投稿しはじめる。その年の冬、八戸市の歌誌「国原」に入会し稲垣浩に師事。30年から中央歌誌「まひる野」同人となり、窪田章一郎に師事。稲垣浩の逝去を受けて53年5月より「国原」を主宰。その後「国原」は57年に青森県芸術文化報奨、平成15年に青森県文化賞、平成18年には青森県褒賞を受賞した。平成26年7月の通巻781号より発行所を滋賀県大津市に移し、現在も発行が継続されている。

若い詠み手を育成するため昭和54年に八戸学生短歌協会を結成、初代会長となる。平成元年には「東奥日報」「デーリー東北」の歌壇選者を務め、その後、東北短歌大会、青森県短歌大会、北奥羽短歌大会等の選者を歴任、平成13年4月から26年3月まで青森県歌人懇話会副会長を務めた。著作として『冬の園』（昭48）、日本現代歌人叢書第28集『稲垣道歌集—母の紋章—』（昭60）、『花の

流離』(平3)、『かたかごの花』(平8)、『光の渚』(平 12)の5歌集、また入門書『歌へのいざない』(昭 60)、歌文集『千人針のうた』(昭 62)、随想集『女のメルヘン』(平2)がある。

平成 26 年 12 月 24 日、逝去。青森県の短歌の発展に果たした功績は大きく、数々の文化賞を受賞した。歌碑は青森県内に2基建立されている。

受賞歴…北奥羽短歌大会八戸市長賞(昭 36)、国原賞(昭 44)、青森県準短歌賞(昭 52)、八戸市文化奨励賞(昭 60)、青森県歌人賞(平4)、青森県歌人功労賞(平7)、八戸市文化賞(平8)、青森県芸術文化報奨(平 11)、八戸市文化功労賞(平 15)、青森県歌人懇話会創立 50 周年記念式典記念表彰(平 16)、青森県芸術文化振興功労章(平 20)

歌碑の歌…

みちのくの水芭蕉めでのぼり来し丘にひそかにキリストの墓

(平成8年6月、三戸郡新郷村キリスト公園に建立)

観覧車まわるよまわれ春の日にはるかの海は未知のかがやき

(平成 10 年 10 月、八戸公園子どもの国に建立)

3、資料紹介

○『花の流離』

図書

1991(平成3)年1月1日

190 mm × 135 mm

主に昭和 57 年以降の作品を集めて編まれた第3歌集。狭庭の花あかり(昭和 57 年—昭和 63 年)、回想の鎮魂花(昭和 27 年—昭和 57 年)長歌5首、花有情(平成元年—平成2年)の三部から成る。この歌集によって稲垣道は第 28 回青森県歌人賞を受賞した。